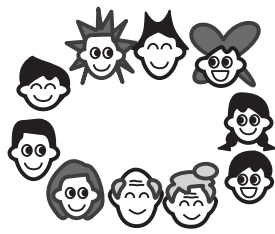


津谷歯科医院 口腔ケア新聞

NPO法人
訪問歯科診療
を広める会
賛助会員

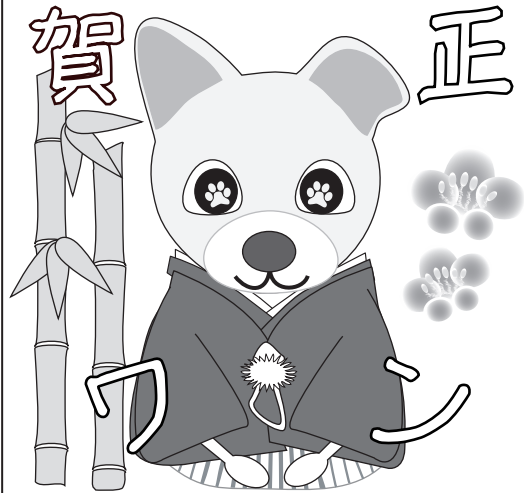


平成30年1月号
発行人:津谷歯科医院
院長:津谷良
住所:岡山市中区海吉1807-14
紙面に関するお問い合わせは下記まで
電話: 0120-779-418
配信代行:訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは! いかがお過ごしですか?

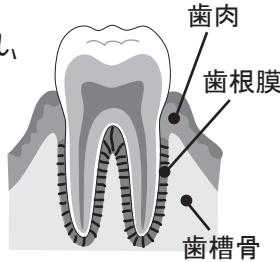
津谷歯科医院、院長の津谷良です。

力いっぱい歯を食いしばった時の噛む力は、奥歯であれば体重に比例していると言われ、体重60Kgの人なら60Kgの噛む力となります。ところが運動時や睡眠中等、無意識に歯を食いしばる時は、最大で体重の2倍の120Kgもの力がかかり、それが長期に続くと自分の歯が削れたり、割れたりすることもあります。私たちは食事の時に噛む場合、柔らかい食べ物なら30Kg位、硬い食べ物なら60Kg位といった具合に、やわらかいものであれば弱く、硬いものであれば強く自然と噛む力を加減しています。この噛む力の強弱をコントロールする時に、重要な働きをしているのが、歯の周りにある歯根膜という部分なのです。今月は、『歯根膜』についてご紹介したいと思います。



歯の根っこを覆うとても薄い膜

歯根膜とは、歯の根っこの周りを覆っています。歯の靭帯とも呼ばれ、コラーゲン繊維がおよそ半分を占める厚さ0.3mm位の組織です。歯や歯ぐき、神経等と比べるとあまり知られていませんが、実はとても重要な役割を担っています。



センサーであり、免振装置でもある

歯根膜は、次のような働きをしています。

- ①歯を支える歯槽骨と歯の間にあり、歯と歯槽骨を強固に結びつけています。
- ②歯根膜には触覚や痛覚といった感覚があるので、噛んだ時の硬さや微妙な感触、刺激を感知して脳に伝えます。この感覚はとても鋭敏なもので、髪の毛一本でもすぐにわかる程です。揚げ物のサクツという食感や、お煎餅のパリツという食感を楽しめるのもこの歯根膜のおかげでというわけです。このセンサーのような働きによって、硬いものや柔らかいものを食べる時に噛む力を調節することができます。

③歯は、歯槽骨の中に歯根膜繊維によってハンモックのように吊り下げられるような格好になっていて、通常噛むことでわずかに沈んだり微小な揺れを生じたりします。これは食事の時、様々な方向から加わる力を上手く逃がして、過剰な力が歯に加わるのを防ぐ免振機能の役割をしています。

原因不明の痛み・・・

「噛むとなぜだか痛い」ということがあります。特にむし歯があるようでもなく、最初は歯科を受診するべきかどうか悩むかも知れません。実はこのような症状は、歯根膜炎による痛みの方が少なからずあり、自然に痛みが引き治ることはありません。歯周病や睡眠中の歯ぎしり、食いしばりが原因の歯根膜炎は、歯に外見上の変化は見られませんので自身ではなかなか気付きません。特に歯周病が進行し歯槽骨が破壊されると、同時に歯根膜も喪失することになります。歯根を歯槽骨にしっかりと固定する組織が無くなるわけですから、歯はぐらぐら動き、最後には抜けてしまいます。痛みや違和感を感じたら迷わず早めに歯科を受診してください。

◆ 歯根膜を人工的に再生することはできないので定期健診を受けましょう ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって 

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」って話をしていたのに・・・そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)
診療科目 歯科 小児歯科
休診日 木曜・日曜・祝祭日
院長 津谷 良

岡山市中区海吉1807-14